

令和7年 第3回北九州市立図書館協議会 会議録

日 時： 令和7年8月26日（火） 14:00～16:05

場 所： 北九州市立子ども図書館2階 大研修室

出席者

○委員（会長他11名、欠席委員4名）

北九州市立大学図書館長	浅羽 修丈（会長）
（一社）北九州市PTA協議会相談役	福田 百合加（副会長）
（一社）北九州市私立幼稚園連盟理事	有田 裕子
公募委員	澤野 亜由美
公募委員	尾田村 福太郎
北九州市社会教育委員	宮本 和代
北九州市婦人団体協議会理事	柿内 よし子
北九州市障害福祉団体連絡協議会事務局長	森 聖子
北九州児童文化連盟理事	八木 真恵
九州国際大学図書館長	山口 秋義
（公財）北九州産業学術推進機構 中小企業支援センターマネージャー	北嶋 知美

○事務局（中央図書館長他9名）

中央図書館長	高松 淳子
中央図書館運営企画課長	藤原 定男
中央図書館奉仕課長	佐藤 時子
子ども図書館長	福嶋 一也
中央図書館運営企画課庶務係長	田中 真徳
中央図書館運営企画課デジタル企画係長	田島 利晃
中央図書館奉仕課奉仕係長	堀尾 節子
中央図書館奉仕課資料係長	山口 典子
子ども図書館企画係長	荒田 智代
子ども図書館学校図書館支援係長	北谷 真司

○傍聴者 なし

会議次第

- 1 議事（1）令和7年度北九州市の図書館（図書館年報）について
（2）令和6年度北九州市立図書館の運営に関する評価について
- 2 その他報告

1 議事

(1) 令和7年度北九州市の図書館（図書館年報）について

令和7年度北九州市の図書館（図書館年報）について、資料に基づき、事務局から説明

- (委員) 30ページの広域利用事業について、北九州市民が水巻町と中間市の図書館を多く利用しているということだが、蔵書の違いなど何か理由があるのか。
- (事務局) 具体的な分析まではできていないが、北九州市に隣接しているので、通勤・通学の方が多いのではないかとこの予想がつく。
- (委員) 私自身、子どもが小さい頃に水巻町の図書館をよく利用していた。理由としてはプールなどのスポーツ施設が隣接していること、駐車料金が無料であったこと、空間が子ども達にとって魅力的だったことが挙げられる。北九州市の図書館はとても好きだが、駐車料金のことが気になるときがある。一市民として、少し改善してもらえると嬉しい。
- (事務局) ご意見のとおり、利用者にとっては駐車場は無料の方がよいだろうし、無料にしたい気持ちもあるが、長時間の利用なども考えると、地域によっては有料にせざるを得ない面もあるので、例えば1時間は無料にするなどといった制度を取り入れながら、利用者が公平に駐車場を利用できるような工夫を行っている。
- (委員) アクセスのしやすさはやはり大切なので、また何かの機会に議論ができればよい。
- (委員) 水巻町の図書館については、図書館で昼食が摂れる、複合施設として多目的に利用できるなどいろんな利便性があると聞いている。私は中間市の図書館をよく利用するが、その理由は予約した本の順番が早く回ってくるためである。
- (委員) 水巻町の図書館のようにいろんな施設を一度に利用できる点は、非常に大きな魅力である。一方で、北九州市には例えば公園に隣接しているという魅力などがあるのではと思う。また、市民の人口の多さという事情もあると思う。今後、さらに利用しやすい環境を整えていく必要があるのではと感じた。
- (委員) 33ページの北九州市子ども電子図書館の貸出回数について。令和3年度に開設して以来この数値はずっと減少傾向にあったが、今回かなり回復している。何か特別に取り組んだことがあれば教えてほしい。
- (事務局) 令和3年度の開設時、公立学校の児童生徒全員に対してIDを配付し、学校の協力を得て一人一台配付された端末を使って各校で操作の練習を行ったことで、貸出回数が大きく上がったが、その後は学校の事情もあり、なかなか貸出回数が伸び悩んでいた。そこで、令和5年度より、学校へ周知依頼を行ったり、利用登録方法に電子申請を追加し、来館しなくても利用できるよう取り組んできた。それが今回の結

果に繋がったのではないか。

ただ、子ども電子図書館として、子どもの利用を増やしたいという思いがある。そのために、学校・学校図書館との連携強化などを課題の1つとして捉えている。

(2) 令和6年度北九州市立図書館の運営に関する評価について

令和6年度北九州市立図書館の運営に関する評価について、資料に基づき、事務局から説明

<総括について>

- (委員) 1ページの総括で、基本的な方向性2の「市民が抱える課題の解決を支援する」という点において、他の関係機関と連携が取れていること、各館が地域性を活かしていること、中央がそのネットワークを充実させているところが好きだと思った。こういった連携は、図書館側から働きかけるのか、それとも国・県・市からの要請なのか。
- (事務局) 市の他部署から依頼されて展示などの連携を取ることもあれば、図書館側から働きかけることもある。
- (委員) 例えばゲートキーパー養成講座などは重いテーマのように感じるが、内容を知ることによって気付く、相手を尊重することに繋がる大事なことなので、やはり各分野での連携において総括的にとても努力していると思う。
- (委員) 1ページの基本的な方向性3の達成状況に記載されている「読み聞かせ・読書ボランティア養成講座」について、私の周りでも高齢化等によりボランティアを引退したり活動を減らしたりしたという声を聞く。そこで、新しい人材の育成について聞きたい。
- (事務局) 確かに、読み聞かせボランティア団体の方と話をするとそのような話を聞く。ボランティア養成講座では、世代を限定せず広く周知しており、若い方にも力を借りたいという思いもあるが、そこは今後の課題と思っている。
- (委員) 若い方も経験のある方も、一緒になって盛り上げていくことができたらい。
- (委員) 私自身、地元の小学校で読み聞かせボランティアをしている。現在はボランティア団体として図書館と連携したり、図書館から情報をもたらすことはない。読み聞かせをしていくうえで、おすすめ本の情報など、図書館と連携する方法はあるか。
- (事務局) 子ども図書館では、制度としてボランティアバンクを作っており、それに登録してもらうと学校や地域などから依頼があった際にボランティアを紹介することになっているが、実際、ボランティアの方はご自身の地元でバンクを通さずに直接地域の学校等とやり取りして活動されており、学校等はその地域で活動する若いボランティアの方

の情報も揃っていることも多い。そういった方にもボランティアバンクに登録してもらおうという方法もあるが、北九州市は広いため、交通費の問題など他の地域での活動が難しい事情もある。そのため、まずは学校とボランティアの方が連携して、お互いに自分のまちの子ども達の読書活動を推進してほしいと考える。

(委員) 2ページの参考資料の「アンケートによる利用者満足度の状況」について、数字が年々改善されて、令和6年度の満足度がとても良い数値になっているが、アンケートの回答総数は年度でどのくらいの数なのか。

(事務局) 令和6年度は、16歳以上が約1,640人、15歳以上が約560人、合わせて約2,200人の人に回答してもらった。

(委員) 「⑤対応の親切さ」と「⑤説明の分かりやすさ」の満足度について、令和6年度が99%台と、とてもよい結果になっているが、教育制度の充実など司書の方の接遇に関わるような工夫を行ったのか。

(事務局) 図書館職員の資質向上のための研修は毎年何かしら取り組んでいる。県立が行う研修など、各種研修を職員に受講してもらいながら、図書館に対する市民の声を真摯に受け止め、改善できることを改善してきた結果ではないかと考える。

(委員) 「④展示・行事の内容」の満足度が、令和2年度の79.4%から大きく上がっている。令和2年度はコロナ禍で展示がうまくできなかったことによるものではないかと思うが、令和6年度、行事・展示で評判がよかったものがあれば教えてほしい。

(事務局) 令和6年度、地区図書館では、人気作家による講演会を行ったり、それぞれ地域の方が興味を持ちそうな展示を行ったりした。中央図書館では、令和5年頃から郷土文化講演会を開催し、人気を博している。そういった取組が、満足度の上昇に繋がったのではないかと推測する。

<視点1 多様な施設とつながる図書館について>

(委員) 5ページ⑦の市立図書館間のネットワーク連携の取組状況について、今北九州市のいろんな公共施設がクーリングシェルターとして対応できるようになっている。図書館の場合は涼みに来た人に本に親しむ機会を提供できるので、そこで今まで本を手にとらなかった人が手に取ることができたら、大きなチャンスだと思う。図書館をシェルターとして利用するとプラスアルファがあるんだという部分は大事なので、チャンスを活かせば図書館ファンはもっと増えるのではないかと。

(事務局) 図書館基本計画でも、気軽に立ち寄れる居場所づくりを目指しているので、読書が目当てでなくても別の目的で立ち寄った方と本との出会いを大事にしたい。

(委員) 図書館がクーリングシェルターとして門戸を開放していることを

いかに市民に理解・認知していただくかが大切。理解・認知していただくと、いろんな意味で好転していくのではと感じた。

(委員) 6ページ⑨のひまわり文庫について質問する。一般図書館とひまわり文庫の蔵書に違いがあるのか、教えてほしい。一般図書館の本をひまわり文庫に一時的に貸出しているのか。

(事務局) ひまわり文庫に配本している図書は、ひまわり文庫専用として購入しており、図書館にある図書とは別個の独立したものとご認識いただきたい。

(委員) 4ページ⑤の大学図書館との連携について。大学図書館は専門書が多いイメージだが、貸出連携はどのような形で行っているのか。また、どういう書籍が主に相互貸借されているのか。

(事務局) 図書館間の蔵書を横断的に検索できる専門のサイトがある。図書について問い合わせがあった際、県内の市町村立図書館、九州各県立図書館、大学図書館と段階的に検索していき、大学図書館にあれば相互貸借を行うこともある。

(浅羽会長) 私は北九州市立大学図書館長をしているが、委員の推察のとおり、大学図書館には専門書が多く、一般向け図書は少ない。そういった点で市立図書館とは蔵書の種類が少し異なる。両者がお互いの特徴を活かして連携することで、市民の方にいろいろな本を手にとっていただく機会を増やすことができるかと思う。

<視点2 市民の課題解決を支援する図書館について>

(委員) 7ページ①の相談内容のデータベースの充実について。この項目ではさまざまな取組で評価がされているが、それでもA評価ではなくB評価である。私が知らなかったような素晴らしい取組をいろいろとしているが、さらにどういう点を高めればA評価になると考えるか。

(事務局) レファレンス事例をなるべくデータベースに入力して市民に共有しているが、いろんな課題を抱えている人がいる中で、例えば県立図書館と比べると、図書館が作成する課題解決支援のための手引書(=パスファインダー)の数がまだ十分ではない、現状維持レベルの取組状況だということでB評価となっている。

(委員) 県立と比べると無理なところはあり、どうしても仕方がないこと。現状でも本当に良い取組だと思っているが、北九州市立図書館として、独自性のある取組を行い、次はAと評価できるようにもう一工夫してほしい。

<視点3 子どもの読書活動を積極的に推進する図書館について>

(委員) 昨今、子どもの活字離れが多いのではと考える一方で、漫画に関しては非常に読みやすいと思っている。図書館における漫画の取扱いに

ついて、どのように考えているか。

(事務局) 子ども図書館では、今年度から漫画コーナーを設置しているので、ぜひお立ち寄りいただきたい。我々も、漫画をシャットアウトしようとは思っていない。読書の入り口としてとても重要なものだと考えている。また、現在策定中の第5次子ども読書プランの中で明記するのはまだ難しいが、学校に対しても、漫画が重要なものであるということ伝えていきたい。

(事務局) 補足となるが、中央図書館でも、教養漫画やファミリー向けの漫画、地元の漫画家の作品などは所蔵している。ただ、北九州市には小倉駅近くに北九州市漫画ミュージアムがあり、そちらが漫画を中心的に収集しているということもあり、図書館で漫画・コミック本全てを収集するというまでには至っていない。

(委員) 漫画を多く所蔵する漫画ミュージアムに対して、図書館ではライトノベルという漫画と小説の間のような、挿絵が多く読みやすいものを収集しているかと思う。活字に少し触れたいという年代には素晴らしいものだと思うので、図書館にあるというのを知らせることで、来館者等が増えるのではないか。

(委員) 小説、ライトノベル、漫画は、それぞれの良さがあると思う。私自身、漫画からいろんなことを学んできた。また、小説は小説で、文字からいかに頭の中でイメージを膨らませるかという点で、学習面・教育面での良さもある。それらの良さを読者自身が実感しながら本にう触れていくことが大切ではないかと感じる。漫画に触れて図書館やいろんな本に親しむという意味で、きっかけにできると良い。

(委員) 10ページ③の「はじめての絵本事業」について。家庭訪問のときに本を配付するというのがとても良いと思った。局を越えて連携しているが、最初からこういう形で始めたのか、経緯を知りたい。

(事務局) 最初は母子手帳交付時に一緒に配布をしていたが、さまざまなお意見を受け、4ヶ月頃までの家庭訪問時のプレゼントということで、このような形での配付に変更した。

(委員) これは非常に良い取組なので、ぜひ今後も続けていただきたい。

(委員) 関連して、「はじめてばこ」という、箱にパックになったもののコーナーを見かける。北九州市の場合は絵本1冊と絵本のリストということだが、何か付属するものを工夫しているのか。

(事務局) 北九州市は、絵本を配付して「終わり」とならないよう、絵本リストをお渡ししている。保護者の方がお子さんの様子を見て絵本を購入する際の参考になればという思いから。また、北九州市子ども電子図書館にも絵本がたくさんあるので、電子図書館の申請案内などをお渡ししている。

(委員) この絵本パックに入ってる絵本のタイトルを知りたい。

(事務局) 『いないいないばあ』、『たまごのあかちゃん』、『ぞうくんのさんぽ』、

『おつきさまこんばんは』、『がたん ごとん がたん ごとん』、『だるまさんが』、『きゅっきゅっきゅっ』、『ぴょーん』の8タイトル。

(委員) いずれも名著で、内容もすぐに浮かんできた。

(委員) 「はじめてばこ」には、童謡の歌詞リストと地元企業がPRしたい試供品が入っている。例えばミルクやだしの素、洗剤1回分など。試供品を渡すことは、地元企業にとっても重要なマーケティングになり得ると思う。

<視点4 誰もが使いやすく、人や情報が交流する図書館について>

(委員) 16ページ②の図書館におけるホームページの充実について。令和6年度は現状維持ということでB評価だが、年報に掲載されているアクセス数ではあまり変化がない。内容の充実は当然図っていると思うが、より広くいろんな方に見てもらうために、ホームページへのアクセス数に関して今後の目標などはあるか。

(事務局) ホームページについては令和5年9月に、市立図書館の貸出システムの更新に合わせ、スマートフォンに合わせた画面表示機能や図書館カードのバーコード表示機能を追加するなど、大幅にリニューアルを行った。アクセス数についての目標は特に設定していないが、できるだけ多くの方に見ていただきたいと思っている。また、見ていただいた際には、図書館としてお知らせしたい内容を見やすく表示できるような取組を行っている。

(委員) この件に関連するが、視点3⑨に「校長会等を通じ、学校へ図書館見学の実施について依頼した」とあるが、全ての学校が図書館見学に来るのは難しいかもしれない。しかし、現在、児童生徒は全員がタブレット端末を持っており、学校図書館職員も中学校区に1名配置されているので、図書館ホームページを活用し、レファレンスの仕方をはじめ有益な情報の見方・使い方を知ってもらうのがよいのではと思った。

(事務局) 子どもの読書活動を推進するために、一番大きな力を持っているのはやはり学校教育である。身近にある学校図書館も含め、図書館見学、図書館ホームページの活用など、図書館から学校に働きかけていきたい。

(委員) 17ページ⑤の高齢者などあらゆる人が利用しやすいサービスの充実について。ALTによる英語の読み聞かせの取組に関する記述があるが、これはこの視点4⑤というより、視点3の子どもの読書活動に関する取組だと思う。視点3④(絵本の読み聞かせ、おはなし会などの実施)または⑨(地域人材の育成)に移動してはどうか。

(事務局) 日本語だけでなく多国語で読み聞かせをするという点でバリアフリーの視点で取り組んでいるので、この項目に含めている。ご指摘いただいた点もとても大切な視点なので、視点3と視点4の両方の項目

に記載することもできるが、読書バリアフリーの考え方が今とても重要な視点の1つになっているため、視点4⑤に記載し、評価している。

(委員) 説明を聞くまで、日本人の子どもを対象にした読み聞かせだと思っていた。多国籍の子どもも対象にしていると分かるよう、少し追記をしてはどうか。

(事務局) 分かるように追記したい。

(事務局) 子ども図書館では、ALTによる読み聞かせのほか国際交流協会と連携し、令和6年度より多言語のおはなし会として、多国籍のお子さんに向けて4か国語で読み聞かせをする取組を開始した。ALTの読み聞かせではお子さんを連れて参加する日本人の方が多かったのに対し、この多言語のおはなし会には海外から来られて北九州で子育てをされている方も多く参加していた。ALTの読み聞かせについては、より多くの方に来てもらえるよう、今後周知の仕方も考えていきたい。

(委員) 19ページ⑩の来館のきっかけづくりについて。提案だが、地区館・分館が独自で行っているビブリオバトルのイベントを、甲子園のような形式で市立図書館全体で実施してはどうか。

(事務局) 北九州市では、コロナ禍以降ビブリオバトルなどのイベント開催が停滞していたが、令和7年度から、学校の背中を押すために中学生を対象としてビブリオバトル講習会を子ども図書館主催で開催する。また、それを受けて、希望者参加型のビブリオバトル大会も開催する予定である。お知り合いに中学生の方がいれば、ぜひお声かけいただきたい。参加賞もある。

(委員) 現在、図書館で司書によるおすすめ本紹介コーナーを設けられているが、著名人のおすすめ本のコーナーや、市民の方のおすすめ本のコーナーなどはあるのか。本を読むきっかけとして、「読書芸人」などといって芸人さんがおすすめ本をプレゼンすると読みたくなることや、私自身が高校時代に読書好きな人からおすすめされて本を読むようになった経験があるため、お尋ねする。

(事務局) 中央図書館では、今年度より「マイブックガーデン」というコーナーを設けて司書のおすすめ本を紹介している。加えて、図書館ボランティアの方にご協力いただいて、ボランティアさんおすすめ本紹介コーナーも設けている。コーナー数としてはまだ多くはないが、今後、利用者の皆さんにいろんな視点で本をおすすめしていきたい。

<視点5 市民参画型図書館について>

(委員) 20ページ(1)ボランティアの育成と活用について。私自身、基本は地域で活躍している読み聞かせボランティアである。ボランティアの地域以外の活動や、ボランティアの世代交代の問題についても、「こういうことがあります、やってみませんか」という中央図書館からの働

きかけが起爆剤となり、地域のいろんなサポーターや市民センターも一緒になってやっていると、少しずつ良い方向へ進むのではないかと
思う。今後ともよろしく頼む。

<その他>

(委員) 13ページ⑫の北九州市子ども読書の日の取組の充実について。視点4⑪の来館のきっかけづくりが毎年度A評価であるのに対し、子ども読書の日の取組はB評価。親しみやすく、とてもよいイベントなので、今後A評価とするためにはどのような視点で取組を行えばよいのかという点から取り組んでほしい。例えば、中高生が主体的にイベントを実施するなど。

(事務局) 我々の令和6年度の取組を評価していただき、御礼申し上げます。もっと高い評価をつけてよいのではないかという意見もいただいた。誰でも気軽に来れて、ゆっくり過ごせて、その中で本と出会えるような図書館にしていきたいと、図書館基本計画の策定を行いつつ昨年度より取組を行ってきた。その点を評価していただいたと感じている。今まさに図書館でも議論をしている点に対して価値づけていただき、また、方向性を示していただいたので、今年度の取組に活かしていきたいと思う。本当にありがとうございます。

2 その他報告

本年6月に中央図書館で開催したスタートアップセミナー（講師：当協議会 北嶋委員）及び今年度 中央図書館開館50周年を記念して行っている取組について、事務局から報告